

## 2 社会科

### 自分で決めることを大切にした社会科学習

上之園強・松田芳明・佐藤 健

#### 1 社会科における自立の必要性

国際化、情報化、高齢化、地球環境の悪化等、子どもたちを取り巻く社会は急激に変化しており、今後もさらなる加速化が予測される。子どもたちにとって、これらの社会の変化が自分たちの生活にどんな意味をもたらすのか自分との関わりの中で社会を見つめ、自分自身の生き方に思いを巡らせながら、自己を確立していく学習が不可欠である。学習者としての主体性がますます求められている。

子どもたち一人ひとりの生活と結びついた学習の充実を図り、「社会を形成する一員として、自ら考え判断し、行動して、自分たちの生活をより豊かにすることのできる力」を育むことが必要である。子ども一人ひとりが、学習の仕方を習得しながら、自分なりの問題意識と見通しをもち、問題を解決しようとする意欲や態度の育成を重視していきたい。

#### 2 社会科における自立と自己決定

##### (1) 自立と自己決定との関わり

社会科部では、自立を、「社会的事象・事実について、自分でめあてを決め、それを追究し、その結果を自ら振り返り、新たなめあてをつくることで、よりよく生きていこうとすること」と捉えた。問題を自ら選択・決定したり、自らの学習方法を身につけたり、学習したことを自分なりの方法でまとめたりする力が求められる。これらのことは、自己決定力の育成と深く関わっている。学習のあらゆる場面で自分自身で決定していく力（自己決定力）が、自立の中核であると同時に、自立への入口となるからである。

##### (2) 社会科学習における自己決定

社会科学習における主な自己決定は、社会科のねらいに着目した自己決定と学習の仕方に関わる自己決定の2つが考えられる。

1つ目は、社会科学習の究極のねらいである、「科学的な社会認識を形成し、市民的資質を育成する」ことに関連したものである。特に市民的資質の育成という視点からは、社会の一員として社会をよりよくしていくための合理的意思決定能力やよりよい社会を形成していくために未来社会のあり方を創造し、発信していく未来志向に関わる自己決定力等の社会的判断力の育成が大切である。

2つ目は学習の仕方に関わる自己決定である。学習問題、学習内容、学習方法、さらには学習のまとめ方を児童自身が決めることである。例えば、課題別による複線型の学習や個に応じた表現方法の活用などが考えられよう。

#### 3 めざす子ども像

以上の考えに基づき、めざす子ども像を以下のように設定する。

- ◎ 社会的事象・事実についての問題を見つけだし、それに対して既習事項やこれまでの生活経験から自分なりに予想をしたり、友だちと交流したりして、問題を焦点化することのできる子ども。
- ◎ 問題解決の方法や手順など自分の学習計画を具体的に立案し、問題解決への見通しをもつことのできる子ども。
- 学習計画に基づいて、資料を取捨選択しながら、問題を科学的に追究することのできる子ども。
- ◎ 学習したことを活かし、合理的に意思決定したりこれからの社会のあり方について自分なりの視点から創造したりすることのできる子ども。

- 学習成果を自分なりの表現方法を用い、工夫してまとめたり発信したりすることのできる子ども。
- 学習の過程で獲得した様々な能力（知識や技能等）を次の学習へつなげたり、実生活に活かしたりすることのできる子ども。

#### 4 「自立に向かう子ども」を育成するための方策

社会科部のテーマに迫るために、次の4点からアプローチを大切にしていきたい。

##### (1) 教材構成

従来までの学習は、「分からせたい内容」があり、それをどう子どもたちに「分からせるか」というように理解型の学習に重点が置かれてきた傾向がある。ここでは、この理解型を基本としながらも、子どもたちが主体的に思考したり判断したりすることのできる思考・判断型の内容を積極的に取り上げていきたい。そのことを達成するために、社会的事象の理解にとどまるものだけでなく、次のような点に留意し、学習材を開発していく。

- ・ 社会的論争問題を内包し、価値判断を促すような内容の広がりのある素材を取り上げる。
- ・ 「このようになってほしい」「こうあったらいいな」などのように、学習したことを発展させ、未来社会のあり方に思いを巡らせることのできるような素材を取り上げる。
- ・ 環境問題、国際化・情報化など社会の変化に対応した新しい内容を含む素材を取り上げる。

##### (2) 学習過程

自分なりの問題を見つける、計画を立てる、自分なりの考えをもつ、自分なりにまとめるといった子どもたちの主体的な学習の保障という視点から、「めあて追究」の学習を大切にしていく。「めあて追究」の学習は次のようなステップを基本とする。

- ア. 社会的事象に出会い、自分なりの問題を見つける。
- イ. めあて追究の計画を立てる。
- ウ. めあて追究の計画に沿って個人や集団で追究や吟味を行う。
- エ. 追究結果を自分なりの方法で表現し、互いに学び合う。
- オ. 自分の追究結果を振り返り、自分の考えの変容や追究方法のよさに気づくとともに、新たなめあてを見つける。

これらの学習過程を通して、科学的な社会認識の形成と市民的資質の育成をめざしていきたい。

また、ここでの「めあて」とは、次の3つの「めあて」を基本としている。市民的資質の育成という視点からは、意思決定型、未来志向型の展開を積極的に組み込んでいきたい。

○なぜ?どのように?……………探究型の展開

○どうするべきか?……………意思決定型の展開

○どうしていきたいか?……………未来志向型の展開

##### (3) 多様な学習活動の取り入れ

実体験や追体験等、具体的で多様な学習活動を組み込んでいく。

- ・ 子どもたちが直接対象に働きかけることのできるような調査活動の重視
- ・ 子どもたちが実感できるような体験の重視
- ・ 社会参加等、学習したことを活かすことのできる実践的な活動の重視

##### (4) 学習の評価と支援

学習を展開していく際、子どもたち一人ひとりが何に関心をもったり困っているのかを十分に把握しておく必要がある。子どもたちの学習状況を看取り、個々の状況に応じた支援を行っていく。

評価にあたっては、観点別学習評価基準を設定し、単元展開の中で焦点化を図りながら、適時評価を行っていく。